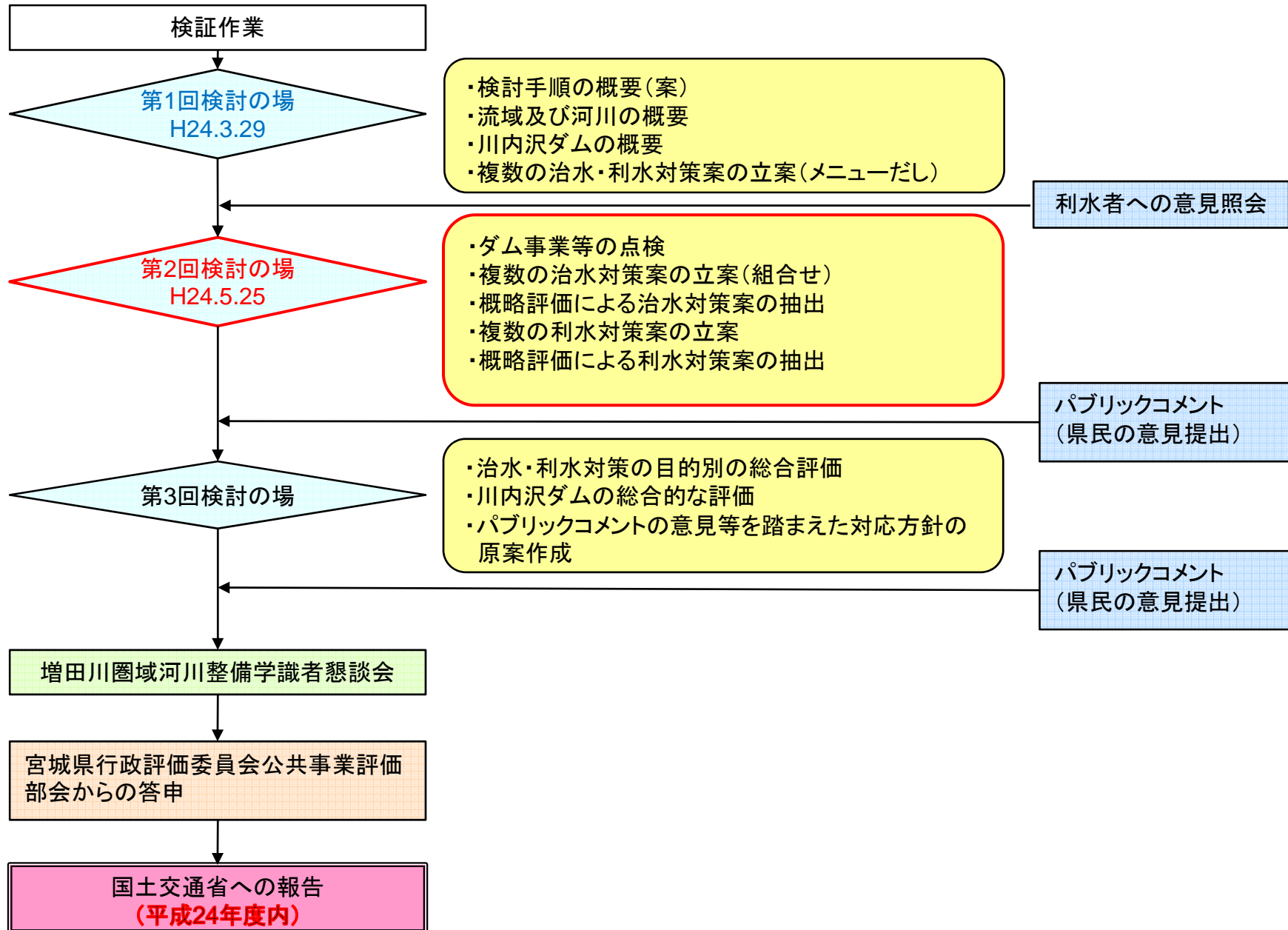


# 検討手順の概要について

平成24年5月25日

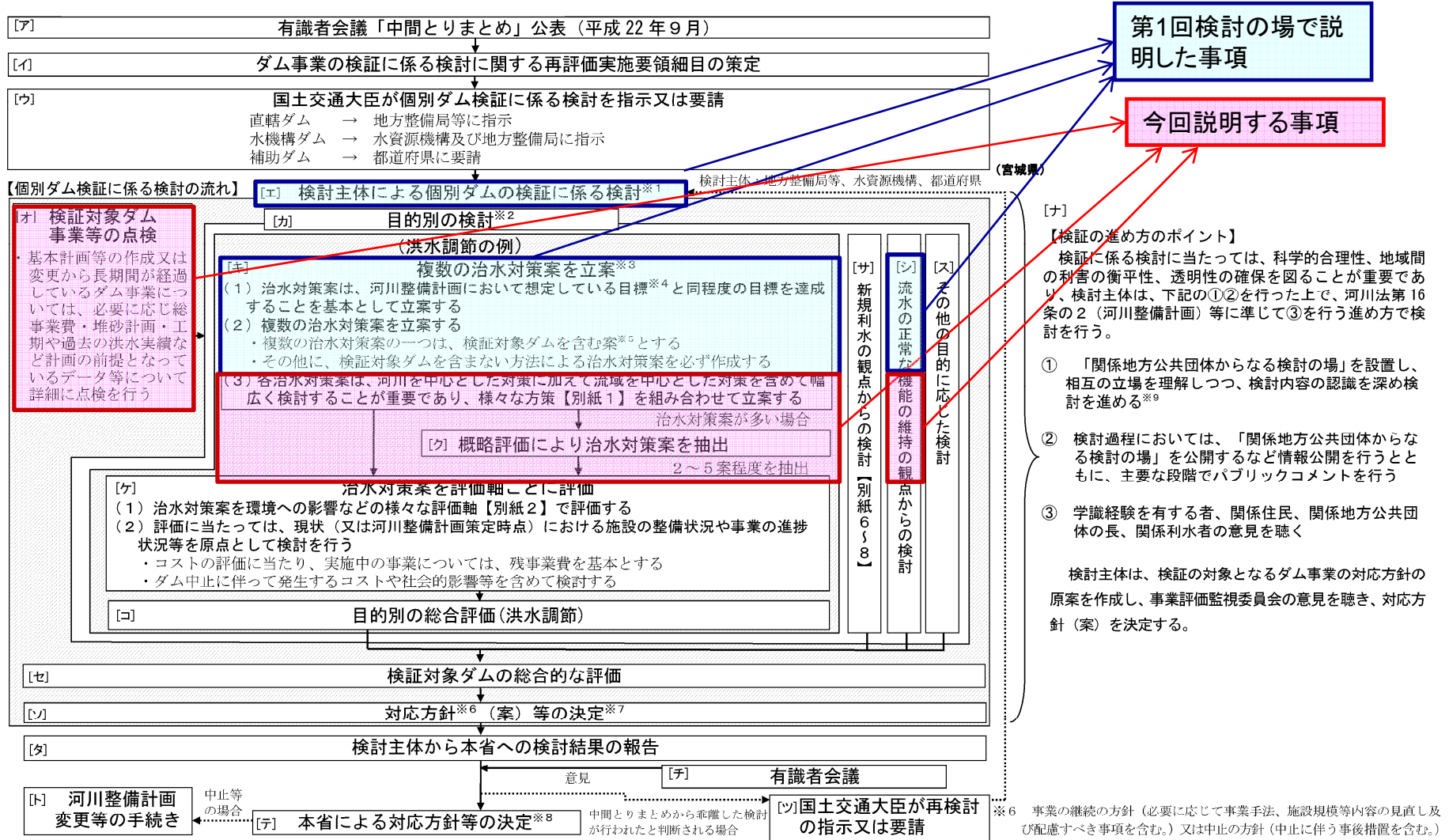
宮 城 県

# 川内沢ダム建設事業の検討手順



# 川内沢ダム建設事業検証の進め方

第12回今後の治水対策のあり方に関する有識者会議「参考資料4」の抜粋



※1 検討に当たっては、流域及び河川の概要（流域の地形・地質・土地利用等の状況、特徴的な治水の歴史、河川の現状と課題、現行の治水計画、利水計画）、検証対象ダム事業の概要（目的、経緯、進捗状況等）について整理しておくことが重要である。

※2 目的別の検討に当たっては、必要に応じ、相互に情報の共有を図りつつ検討することが重要である。

※3 河川整備計画は当該検証対象ダムを含めて様々な方策の組合せで構成されるものであり、検証対象ダムを含まない方法による治水対策案を立案する場合は、河川整備計画において想定している目標と同程度の安全度を達成するために、当該ダムに代替する効果を有する方策の組み合わせの案を検討することを基本とする。

※4 一級河川のうち国土交通大臣が管理する区間においては、戦後最大洪水又は超過確率率が「数十年」程度の洪水としている場合が多い。

※5 河川整備計画が策定されている水系においては、河川整備計画を基本とし、河川整備計画が策定されていない水系においては、河川整備計画に相当する整備内容の案を設定する。

※6 事業の継続の方針（必要に応じて事業手法、施設規模等内容の見直し及び配慮すべき事項を含む。）又は中止の方針（中止に伴う事後措置を含む。）をいう。

※7 直轄ダム、水機構ダムの場合は「対応方針（案）の決定」、補助ダムの場合は「対応方針の決定」。

※8 直轄ダム、水機構ダムの場合は「対応方針の決定」、補助ダムの場合は「補助金交付等に係る対応方針の決定」。

※9 関係地方公共団体の数が多い場合等においては、必要に応じ代表者を選定するなどの工夫をする。

# 複数の治水・利水対策の立案、概略評価について

○河川や流域の特性に応じた治水及び流水の正常な機能の維持の検討にあたっては、**増田川圏域河川整備計画において想定している目標と同程度の目標を達成することを基本として立案する。**

○目的別の代替案の立案にあたっては、「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」に基づいて、幅広い方策を検討し、組み合わせて、複数の対策案を立案する。

治水に対する代替案 : 26方策

流水の正常な機能の維持に対する代替案: 17方策

○対策案の検討範囲は、川内沢川本川及びその流域を中心とし、河川整備計画で予定している河道整備との関連も適切に評価する。

○川内沢川及び川内沢川流域において、①明らかに不適当と考えられる結果となる場合、当該対策案を除く。

- ・制度上、技術上の観点から極めて実現性が低いと考えられる案
- ・効果が極めて小さいと考えられる案
- ・コストが極めて高いと考えられる案

前回、主に実施したメニューだしの概略評価の考え方

○②同類の対策案がある場合は、それらの中で比較し最も妥当と考えられるものを抽出する。

- ・移転補償家屋数、コスト等について定量的な検討を行い比較することが考えられる

今回実施した組合せの概略評価の考え方

※:「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」抜粋

# 今回の「検討の場」での説明内容

※: 第1回検討の場で説明した事項

## 川内沢ダムの事業等の点検

- ・総事業費
- ・工期
- ・堆砂計画
- ・洪水実績など計画の前提となっているデータ等

※: 今回説明する事項

